

2024 年度 団体交渉 議事録

日時：2024年 12 月 5 日(木) 17:00～18:00

場所：図書館棟 4 階第 1 会議室

上半期業績報告資料について

- 教育活動収入計 28,989百万円（昨年比 +160百万円）
 - 教育活動支出計 27,658百万円（前年比 +343百万円）
 - 教育活動収支差額 1,331百万円（前年比 ▲182百万円）
- 当年度だけで見れば黒字（黒字額は昨年度より小さい）

1. 賞与の引上げについて

- 今回は要求に沿った増額なし
- 仮に加給額を5000円／人とすると約1千万円の支出となる（事務方コメント）

2. 基本給の引上げについて

- 2024年6月より診療報酬改定に伴う賃上げを実施し職務手当として支給（回答書）
（追加回答に内訳あり）
- 次年度は2.2%の賃上げとなる見込み（事務方コメント）

（組合）今後の賃上げのために何を収入源と考えているか？

（回答）教職員の生産性向上による収支差額の改善

（組合）生産性向上とは具体的には？

（回答）医療インバウンドの増加を見込む

（病院長）

（1）入院患者・手術件数・外来営業を増やす必要あり。

（2）材料費削減のためには現場医師が価格交渉に関わるのが重要。

（3）中央手術部拡充にむけて現在調査中

3. 私立学校方施行規則改正について

- 理事会 17名 → 13名

- 評議員 36名 → 15名
- 監事 3名（変更なし）
- 理事の選任 理事会 → 理事評議員選任委員会（委員の過半数は評議員会）
- 監事の選任 理事会 → 評議員会

（評議員の選任方法は聞き漏らした）

（組合）外部からの（たとえば銀行など）介入が強まるということか。

（回答）それはない、むしろ監事の機能が強まるので理事会の透明性が上がるのでは。

4. 賞与原資減少に関する管理者の責任

（特に意義のある回答・コメントなし）

5. 36協定

6. 就業ルール周知

（要求書、回答書の内容を確認）

7. 「断らない救急」

救命救急センター開設による「断らない救急」と時間外勤務延長について

勝間田先生の発言

納税者に求められている救命救急センターの役割を果たすため、ここでしか対応できない診療を行う。

「断らない救急」は象徴的な文言で、何でも対応するように言っているわけではない。

その場の医師（救急医）が当面の診療にあたる。

8. 兼業について

要望が伝わった感じを受けなかった。

9. 福利厚生としてのDC

（組合）法人拠出金1000円の将来的な増額を

（回答）拠出金増額を現在は考えていない

（組合）更新の機会は1回だけか。福利厚生としての利点が周知できていないのでは。

（回答）様子見ながら更新、新規契約についての機会をつくる。

（組合）福利厚生をもっと考えてほしい；例として、食堂でお弁当販売、教職員が使えるAIを法人契約、など。

学長の追加発言

・2022年の出生数は88万人を想定していたが、実際には77万人で、将来の学校教育に影響が出る。新しいことにチャレンジするか、学校を集約し撤退するか、もう一つの案からどれかを選択することを求められる。撤退する場合には補助金が出る。本学は、これをチャンスと考えチャレンジすることを選んだ。ヨーロッパでは、Ver1. 教育、Ver.2研究、Ver.3社会実装、Ver.4社会を変える研究を行う、と段階が進むことが言われている。本学には、BNCTがあり、LDセンターがある。これらを中心に研究が進むことが考えられるため、チャレンジしていく。

以上